

## 第12回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育総務部教育総務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会臨時会	
事務局（担当 課）	教育総務部教育総務課（現 教育部庶務課）	
開催日時	平成26年11月19日 午後2時	
開催場所	教育委員会室	
出席者	委員	渡邊 靖彦（委員長）、菅谷 眞（委員長職務代理者）、千馬 英雄、嶋田 由美、三田 一則（教育長）
	その他	教育総務部長、教育総務課長、学校運営課長、学校施設課長、教育指導課長、 教育センター所長、統括指導主事
	事務局	教育総務課庶務係長、教育総務課庶務係主事
公開の可否	一部公開 傍聴人 0 人	
非公開・一部公 開の場合は、そ の理由	第44号議案については人事案件のため非公開とする。	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第44号議案 臨時職員の任免について</li> <li>2. 第45号議案 平成27年度教育課程について</li> <li>3. 報告事項第1号 能代市への教員派遣団の報告</li> <li>4. 報告事項第2号 平成26年度RCフェスタの結果について</li> <li>5. 報告事項第3号 平成27年度豊島区教育委員会研究推進校及び 研究奨励校の募集について</li> </ol>	

渡邊委員長)

ただいまから第11回教育委員会臨時会を開催いたします。本日の署名委員は、嶋田委員と菅谷委員です。

(3) 報告事項第1号 能代市への教員派遣団の報告

<統括主事 資料説明>

渡邊委員長)

限られた時間の中で大変中身の濃い2日間であったとご報告いただきました。

三田教育長)

先生も感じたと思いますが、能代の人たちは非常にフレンドリーでした。人をとても大切にした対応だと強く感じました。

渡邊委員長)

委員の皆さんは何かご意見等はございますか

千馬委員)

天候が大変だった中で頑張っていたということで、お礼を申し上げます。

当たり前ですが、教師は指導技術を高めていくことが基本ですが、非常に高い技術を持っている能代市の教え、学び、まとめる力はとてもすごいと感じます。能代は学力格差が出ないように努力をされていると思いました。

また、学習規律を子どもたちに対して徹底されていると感じ、実際に授業を見てみたい気持ちになりました。人間形成を培う努力をされていて、敬意を表します。

ほかにも、もてなしの姿勢を能代市の方々は持っておられるとも感じました。

嶋田委員)

今回も実りの多い研修だったようで、写真を見せていただくとその様子がよくわかりました。すごくいいと思ったのは、ビデオに映っている子どもたちが発表者のほうを向き、背中姿勢がすっとしていました。だらりとしているのではなく、発表している人を尊敬し、会話を聞こうという姿勢でした。自立して学ぶことにつながっていると思います。

それから、中学校でもハンドサインを使っているということで、自分でわかっていないのか、わかっているのかをきちんと意思表示できるよう保証してあげるシステムが講じられていることは、学ばなければいけないと感じました。

授業改善リーダーには中学校の先生は入りますか。

教育指導課長)

今回、小学校は5校から、中学校は2校から参加するということになっていまして、次年度以降も中学校にぜひ入っていただくようにしたいと思っています。

嶋田委員)

小学校は職員室でいろいろ交流ができる場所がありますが、中学校の先生はどうしても自分の教科の専門性のところで、わりと島状態になるところもあるので、授業でいろいろ交流ができる期待が得られたら、中学校の先生にとってもいい気がしました。

菅谷委員)

短期間で非常に大きな成果を上げられたということでよかったですと思います。

昨年も伺いましたが、こういう授業では皆仲よくなって非常にいいと思います。いじめの問題は解消されているかと思いますが、ハイパーQ-Uについて、能代市の先生方の反応は何かありましたか。

教育指導課長)

淳城西小学校の校長先生がおっしゃっていましたが、特別支援対象の子どもがいないわけではなく、いじめがないわけではないとのことでした。

そういう面では東京の学校と同じで、アンテナを高くして対応しているようです。その中で、ハイパーQ-Uについては、千登世橋中の笠先生が全国的にも活躍していることもあり、実践授業を見せてほしいというリクエストがございました。日々の授業が充実することによって、当然いじめも減っていくと思いますが、能代市の先生も地道な努力を積み重ねているという話を聞きましたので、そこは豊島区と共通する部分だと考えております。三田教育長)

補足しますと、淳城西小学校の校長先生は以前能代市教育委員会の指導課長をされていたことがあって、その後能代第一中学校の校長をされて、今年、淳城西小学校に異動されて来ました。豊島区の派遣した3人の教員が6月に来たときは、クラスが学級崩壊していたそうで、先生がかわって立て直しに入ったみたいで。そうしたところ、見違えるように変わったそうです。子どもに向かい合っていてやっていることが積み重なって、崩壊したものが人間の原点に帰りながら戻されているのです。

能代市でも、いじめも学級崩壊もあるし、豊島区と変わりません。そこに向かう姿勢が違うのではないかと思います。

菅谷委員)

ハイパーQ-Uが能代でも役に立つのではないかとということで、一方的ではなく、お互いということで、こういう連携が意味を持つことがわかりました。今後も進めていただきたいと思います。

別の話ですが、能代の先生と話しましたが、どうして秋田県、特に能代の学力はこんなに良いのか聞いたら、以前は、全国でも下のほうだったとおっしゃっていました。どうして全国上位になれたかを聞くと、いい先生をみんな選んでいるとおっしゃっていました。やはり、最終的には先生の力が学力にしても、子どもの成長にしても非常に大きな影響を与えることははっきりしています。豊島区の先生をレベルアップしていくため、この連携は非常にいいと思いました。

三田教育長)

能代市との懇親会の前に、30分ほど能代市の教育長と指導課長に同席いただいて、今年度の総括と次年度に向けてどのようにこの連携を進めていくかを話し合いました。お互いにウイン・ウインの関係で到達を迎えることができたということで、相互に評価が高か

ったことをお伝えしたいと思います。

ハイパーQ UだけではなくICTの環境についても非常に興味をお持ちだということで、私たちが情報提供してきて良かったと思いますし、豊島区は若手主流の人材で組織を成り立たせていかなければいけない点では、能代市からもたくさんの宝物の山を授かりました。

能代市とはそういうギブ・アンド・テイクでやれているということで、それぞれの財政力も規模も違いますが、できる範囲でこの連携事業を今後も続けていこうと、両教育長間で確認をしました。

渡邊委員長)

3年目になり、これが命題だというのが見えてきたような報告であった感じがしました。やはり、先生の力がすごいのだと思いました。その力は、技術があるということではなく、先生にとっても魅力があるのだと思います。区内の小学校、中学校を見ていると、クラス全体に投げかけて授業をしている先生はあまり見かけません。信頼を持ってもらえるだけの指導力が、能代の先生には備わってらっしゃるのだと思います。学ぶところがたくさんあることを実感できた派遣だったと思うので、これからも吸収していただければありがたいです。

三田教育長)

北羽新聞という現地の新聞社が、私たちが能代を訪問したことを、初日の近藤先生の授業風景について報道されておりました。

多くの新聞社が、豊島区と能代市の行く末を注目していると思います。私たちが事務局を挙げてどんどん発信していくべきだと感じました。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(1) 第44号議案 臨時職員の任免について

<教育センター所長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 第44号議案了承)

(2) 第45号議案 平成27年度教育課程について

<教育指導課長 資料説明>

渡邊委員長)

平成27年度の教育課程について、学期と休業日の決定をご提案いただいております。ご質問等はございますか。

千馬委員)

授業時数の確保のために、若干前のめりでスタートしているということで、定着していると捉えてよろしいですか。

教育指導課長)

始業式の日については、学校にも定着しております。また、本区は既に普通教室の冷房化が全て完了しておりますので、授業を進める上においても問題無く順調に行われているという状況です。

三田教育長)

これで問題なく決定していいと思いますが、議員の方にいろいろな行事でご挨拶をお願いすることがありますので、議会事務局を通じて学校の日程を情報提供していただき、他にも民生・児童委員などの関係機関に対してアナウンスをきちんとして欲しいと思います。

それから、教育委員会のホームページにもきちんと掲載してほしいです。

教育指導課長)

各学校のホームページでは年間行事予定としてアップしていると思います。

各学校の行事予定については、運動会や学芸発表会、土曜公開授業等、一覧にまとめまして、事務局に提供しています。議員や民生委員は学校の行事を確認しながら動いていらっしゃるの、より一層周知徹底したいと思います。

(委員全員異議なし 第45号議案了承)

#### (4) 報告事項第2号 平成26年度RCフェスタの結果について

##### <統括主事 資料説明>

渡邊委員長)

先日行われました26年度のRCフェスタにつきまして、結果と考察を踏まえてご報告をいただきました。

委員の皆さんも当日は参加されたので、ご感想等を伺いたいと思います。

菅谷委員)

私の想像以上に、皆さんの発表がよかったと思います。特に低学年の発表はすばらしいと感心しました。また1年間で読書量が大きく増えたことを聞いて、読書コンクールなどの効果があったのだと思います。読書習慣がついてきたのでしょうか。

英語教育を小学校から行なうのは少し早いのではないかという気がしていましたが、今回のRCフェスタを聞いてみると、案外できるものだと感じました。ただ、学校全体の英語レベルが、こういう英語の発表に参加する子どもたちに達しているのか気になっています。うまくやれば英語のレベルが上がることははっきりしていますから、こういったことを利用し、読書とともに英語教育も実力アップができるのではないかと思います。読書フェスタは6年目ですが、1年目に参加した子どもたちは、もうすでに大学生になっているわけです。こういう読書の習慣を身につける行事があると、大学生の読書離れを食い止めるようなことにつながってくると思います。

嶋田委員)

私は今年初めて伺いましたが、個人表彰された子どもたちもしっかり読み込んでいて、さすがだと思いました。また、こういう会では高学年の子どもたちの発表が中心になりますが、低学年が発表されたのは大きなことだったと思います。低学年の方たちが自分たち

の取り組みを報告できるようになって、中学・高校と、こういう活動がつながっていくのだと思います。そういう点でいい試みだと思いました。

English Worldの方は初めてだったので、来年に向け指導課でもいろいろな課題を見つけていると思いますが、なかなか難しいと思います。来年もやるのであれば、自立したプレゼンというか、発信することをきちんとご指導いただきたいと思います。1度ああいふパターンを見てしまうと、次に選ばれた学校の先生も、あのように入音源を流してせりふ劇みたいに行なわれると思います。そうではなくて、例えば自分たちで少し時間を使って、自分たちの持っている文法でいいので、ストーリーを要約したものを自分たちの言葉で発信するとか、せりふを読むのではなくて、自分たちが学習したことを発表できるかいいと思います。

排除するわけではありませんが、帰国子女ではなく、中学に入って初めて英語を勉強した子どもたちが活躍できる場であってほしいとも思いました。

千馬委員)

私も何回か参加させていただき、読書フェスタの良さを感じていますが、私自身、読書感想文コンクールを非常に大事に思っています。

今後も小学校が参加できるように次年度から何か工夫していただくとありがたいです。  
三田教育長)

正直言うと、読書フェスタもマンネリ化していました。ここに英語を入れたらどうだろうかということ、私の考えとしては、小・中学生で英語でのスピーチコンテストみたいなことをやって、何のために英語を使うのか、目的を持たせた英語活動をできるようにしてあげたいと思っています。子どもたちに英語も感想文も表現の場を提供し、そこで称賛されることが自分にとってすごく大きな励みになるような機会をつくってあげたいです。

渡邊委員長)

私は4年ほど前からか見させていただいていて、外から人を呼んで読み聞かせをやらしてもらったり、何か発表してもらったりというイベントをしていて、それとあわせて表彰するかたちでした。子どもたちの目が読書へ向かない感じでしたが、今回のこのやり方は、子どもたちにはよかったと思います。

街の書店は売り場面積が減ってきていて、子どもたちが本に触れる機会は、今やもう図書館しかありません。学校の図書館は大変重要で、司書が来ることによって、子どもたちが本に興味を持てるよう仕組んでくれていることが、この読書量が増えていることにつながると思います。

ただ、残念ながら中学生はあまり図書館へ行かない傾向があり、小学生のうちに読書習慣が身についても、中学生で読書タイムをやっている、読みたい本が本当にあるのか、その辺が今の日本の事情として本離れの課題があるのだと感じます。

ななまる君の120冊に掲載されているような本はどこにでも置かれていて、小学生のときに一度読んだ本も、読めなかったものも読めるような配置ができればいいと思いが

ら、参加させていただきました。

三田教育長)

学校と教育委員会は、本来読書の持っている役割を深く考えて位置づけていってほしいです。調べ学習が最近主流になっていて、学習情報センターでタブレットを用いて調べ学習をすることは浸透してきていますが、もともとの読解読みについて弱くなっているのは良くないと思います。ぜひ、図書館運営として、読書活動のあり方を工夫してもらいたいと思います。

教育総務部長)

議会に対して、予算をつけた結果、どういった効果があって、どのようにこれから進めていけるかという教育委員会としてのスタンスを提示するためにも、読書フェスタを予算化して、議会にも発信していかなければいけないと思っています。

教育指導課長)

成果の部分につきましては、区独自の学力調査等も含め継続的に分析を進めておまして、例えば西巢鴨中学校は平成23年度から試験的に学校図書館司書を配置していますが、国語の読解力の部分について、ヒアリングでは成績が非常に伸びているとか、昨年度に比べて読書量が倍増しているという学校が幾つも出ていますので、数値的なものを取り込んで議会や区民に発信できるよう準備を進めたいと思います。

三田教育長)

行政では、投入したものに対しての結果が問われます。昨年どおりで結構ですというのは、何もなくていいと言うのと同じなので、そういうつもりでやっていなくても、私たちの努力が足りないということを、反省も含めて感じています。ぜひ、部課長も前例踏襲でよしという時代ではないことは肝に銘じてやっていただきたいと思います。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(5) 報告事項第3号 平成27年度豊島区教育委員会研究推進校及び研究奨励校の募集について

<教育指導課長 資料説明>

渡邊委員長)

平成27年度の研究推進校と研究奨励校の募集につきまして、教育指導課からご報告いただきましたが、ご質問等がありますか。

菅谷委員)

推進校と奨励校は、例えば今年で終わった場合、続けて希望を出せますか。

教育指導課長)

続けて希望していただくことは可能です。ただ、例年、募集以上の学校が希望を出してきていますので、研究の内容を審査した上で奨励と推進を指定しております。

現段階で2、3校、推進校の希望を出している学校がございまして、そういった意味でもかなり研究に力を入れようという教育委員会の意図が学校にも伝わっていると推察して

おります。

三田教育長)

これについては予算を増やしていかなければいけないと思っています。授業のレベルや、教員自身の指導力を高められるので、結果として子どもの学力が伸びます。例えば、さくら小学校は道徳で研究を深め、成績も伸びています。単に研究をやって、終わってよかったということではなく、研究が終わったのは子供の学力と教員の指導力向上の始まりだという考えを持ってほしいと思います。研究で一定のスタイルが見えてきて、子どもの学びも定着してきたのは、スタートラインに立ったというだけの話です。継続あつての成果であり、次の年も違うテーマでチャレンジすることも良いと思います。

規模としては、毎年全校でやってもらっても私たちが指導に行けませんので、少なくとも3年に1回のサイクルでどこかの学校が必ず研究していることが理想です。研究するのは当たり前という風土ができてくると、間違いなく授業を改善できると思うし、子どもの学力も上がっていくと思います。かつて都心部の学校で2年に一度研究発表をやっていました。規模は小さいからできたのですが、そこはいつも学力が高かったです。そこから異動してくる教員も優秀でした。東京都立教育研究所がなくなりましたし、研究員制度も復活したとは言え、私たちが若いころにあった研究員制度や開発委員制度、研究生制度などは全然レベルが違うと思います。ですから、そういう意味でも校内研究が拠り所になりますし、区の課題を反映してやっています。

菅谷委員)

この研究校指定というシステムは、先生たちの力をぶれなくしていくことが一番の大きな目標だと思いますが、研究を受けた先生たちは、自分の業績として評価されるのですか。学校指導課長)

業績自体は各学校の校長がつけますので、研究指定校を受けた学校の先生が特別受けたから、他の教員と比べて良くなるというシステムではないですが、客観的に見てほかの学校の先生よりも授業改善をしっかりとやったということであれば、最終的には私たちのほうで結果に応じて反映させている状況です。

三田教育長)

何年度にこういう研究発表をしたという履歴を書く欄が異動届にあります。校長がそれを見たときに、これは研究主任で頑張ってもらえとか、国語に堪能だから国語の主任にしようかなど、資質や能力を評価して、学校でどうやってその教員を生かしていくか調整できるので、こういう評価は大事だと思っています。豊島区から異動してくる先生はすごい、いろいろな研究をやってきたと言われて欲しいというのが意図としてあります。

菅谷委員)

先生方も研究に対するモチベーションもある程度必要だと思うので、そういった評価システムがないとおかしいと思います。積極的にそういう研究に取り組む姿勢の先生たちが評価されるのは当たり前だと思います。



私たちの仕事でも、やったことが患者に非常に有効だと非常にうれしいです。同じように、先生たちも実際自分でやったことが成果として子どもにあらわれるのが一番いいと私は思います。

千馬委員)

小学校の先生たちは区小研でそれなりに研究されています。それとこれは直接結びつくわけではないとは思いますが、関連的に何かありますか。

教育指導課長)

次期学習指導要領の改訂に向けて、問題解決的・協働的な学習など、これからの学習指導の中で欠かせないことが、区小研や区中研、各学校の研究の中でも一つのキーワードになっていると思いますので、関連してくる内容が多い傾向があります。

統括指導主事)

私の経験からお話しさせていただきますと、区小研は、豊島区に限らずどこもそうですが、教科ごとに会をつくりますので、どちらかというと自分が専門とする教科について指導力と専門性を磨く場だと考えております。校内研、こういった校内で行うものについては、学校の子どもたちの実態を踏まえて、1年生から6年生まで系統的に、より学校の子どもたちの実態に即して全体でやっていくというように、それぞれ若干異なる研究のスタイルだと考えております。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

渡邊委員長)

以上をもちまして、本日の案件は全て終了いたしました。

(午後4時20分 閉会)